

障害によるハンデがあっても人生を楽しむことに隔たりはない!

1. はじめに

皆さんの人生の楽しみは何ですか?音楽鑑賞や映画鑑賞、ドライブ、旅行、ヲタ活、ゲーム、温泉など…、人生を豊かにする楽しみをそれぞれ持っていると思います。では、重複障害者や盲ろう者はどのようなことを人生の楽しみとしているのでしょうか?盲ろう者の方でも映画を楽しむことはできるのでしょうか?

2. 問いの背景

平成29年文部科学大臣から「特別支援教育の生涯学習化に向けて」というメッセージが発せられ、障害者が一生涯を通じて教育や文化芸術、スポーツなど様々な機会に親しむことができるように支援していくことの重要性が指摘されました。さらに、私が重複障害のある子どもと接する中で、ゲームや Youtube が楽しみだという子どもが多く、「この子たちは他にどんなことに興味を持つのか?」「周囲からの支援を常に必要とし、自分一人ですることが限られている中でも楽しめることは他にないのか?」と疑問を抱くようになりました。また、以前留学した際、聴覚障害者や視覚障害者、その他の障害がある人でも楽しむことができる映画と盲導犬も一緒に入ることができる映画館が存在することを知りました。そこで、日本で盲ろう者はどのように映画を楽しんでいるのか?誰でも映画を楽しめるためにどんな工夫がされているのか?疑問に思いました。

3. 結果

○障害児(肢体不自由児)の余暇の過ごし方 ※基本的に平日の放課後や週末

自宅内	自宅外
「休息・睡眠」「テレビ・DVD・音楽鑑賞・ゲームなど」	「散歩」「サービス利用」「学童」「通院・リハビリ」「買い物など家族との外出」「スポーツ、レクリエーション」「娯楽施設やイベント参加」長期休暇になると、「旅行や帰省」も加わった。

○盲ろう児の余暇の過ごし方

運動障害あり	運動障害なし
「家族の体に触れていたり、抱っこされたりしている」「プール」「学童に参加する」「友達と遊ぶ」「玩具で遊ぶ」「季節にちなんだ遊びに行く」「公園」など	「ドライブに行く」「散歩」「絵本」「玩具で遊ぶ」「公園で遊ぶ」「買い物」「メール」「読書」「音楽鑑賞」「ゲーム」など

○盲ろう者・視覚障害者・聴覚障害者の映画の楽しみ方

「ユニバーサル上映会」



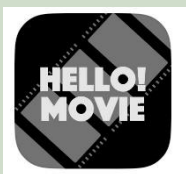
ユニバーサル上映会で触手話を通して映画を楽しんだ荒木さん（左）（6月、長崎市の市民会館で）

長崎県で行われたユニバーサル上映会。

盲ろう者の荒木さんが触手話を用いて映画を楽しんだ様子。荒木さんは、「劇場の空気感を味わいながら楽しめた。映画をみる機会はほとんどなく、うれしかった」と語っています。

障害の有無に関わらず、視覚や聴覚に障害のある人でも映画館で映画を楽しむことができます。視覚障害者のための音声ガイド、聴覚障害者のための日本語字幕が付けられ、シナリオや場面解説を点字データ化した冊子が用意され、触手話ができるスペースも設けられています。

「音声ガイドアプリ」



「HELLO!MOVIE」「UD Cast」

観たい映画データを事前にダウンロードしておいたり、スマートフォンのマイクから映画の音声を拾って音声ガイド再生を行ったり、映画の字幕表示を行うアプリ。

4. 最後に

私が予想していたよりも、重複障害者や盲ろう者の余暇の過ごし方は様々でした。また、盲ろう者や視覚障害者、聴覚障害者も余暇を楽しむためのツールについても知ることができました。しかし、障害のない人と比べると余暇の種類は少なく、障害によるハンデがあることで制限され、経験していないことも沢山あるのだらうと感じました。「障害によるハンデがあるから、やりたいこと・やってみたいことを諦めざるを得ない」という環境が当たり前で良いのでしょうか？私たちができることは、障害が隔たりにならないバリアフリーな環境を作っていくこと、そして障害のある人々が人生を楽しむことができるように支援すること、その楽しみを広げる手伝いをするのではないだろうかと考えます。

参考文献

障害児の余暇としてのレクリエーション活動やスポーツをとりまく実態調査 [2024195.pdf \(shiga.lg.jp\)](#)

盲ろう児の余暇の過ごし方—保護者に対する質問紙調査を通じて— [盲ろう児の余暇の過ごし方：保護者に対する質問紙調査を通して \(jst.go.jp\)](#)

[見えなくても聞こえなくても楽しめる上映会…指の形や手の動きで感じ取る「触手話」で鑑賞：地域ニュース：読売新聞 \(yomiuri.co.jp\)](#)